

# 成績評価法入門

愛媛大学教育・学生支援機構 教育企画室  
野本ひさ

1

## 内容

1. 成績評価の目的
  2. 成績評価の原則
  3. 成績評価の方法
  4. よいテストのための条件
  5. 様々な成績評価①
  6. 様々な成績評価②
  7. 試験の管理
- 参考文献一覧

2

# 1. 成績評価の目的

- 成績評価とは、あらかじめシラバスに設定した授業の目標を学生が学習によりどれだけ達成したかを測り合否判定を行う行為を示します。
- 授業の目的の明示とそれに基づく成績評価は、授業を受けようとする学生との「契約事項」です。
- 評価は、学生がその結果をもとに行動を起こすために実施するものであり、その後の学習をできるだけ良くするために行います。

# 1. 成績評価の目的

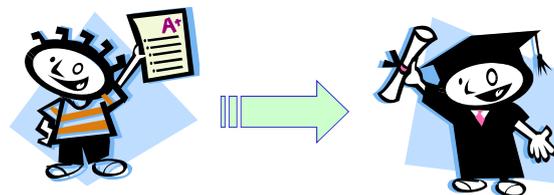
時代のニーズや学生の変化に伴って、成績評価に対する考え方も変化してきています。

- |             |   |               |
|-------------|---|---------------|
| 1. 何を学んだか   | → | どのように学んだか     |
| 2. 集団で何番目か  | → | 自分がどのくらい成長したか |
| 3. 特定の能力の診断 | → | 総合的な能力の診断     |
| 4. 教える人が評価  | → | 学ぶ人が評価        |
| 5. 点的な評価    | → | 線的・面的な評価      |

# 1. 成績評価の目的

- テストは学習を支援するためのひとつの方法です。
- テストは成績をつけるだけに行われるのではなく、以下の教育機能をもっています。

1. 学生自身が復習をし、授業で学んだことを整理する機会
2. 学生が自分の理解度を確認するための機会
3. 学生がさらに学ぶ動機を獲得する機会



高等学校までの評価とは目的も方法も異なることを、学生が理解しておくことも必要です。

## 2. 成績評価の原則

### 1) 何を評価するのか？

- ・評価は授業の到達目標に応じて行われる。
- ・成績評価の項目と学生の到達目標を対応させるとよい。
- ・知識領域、態度領域、技能領域のそれぞれを測定するのに適した方法を用いる。

## 2. 成績評価の原則

### 2) どのように評価するのか？



### 3. 成績評価の方法

#### 1)いつ評価するのか？

- ・期末試験による評価以外にも、評価の目的に応じた評価時期を設定します。

- ・ プレテスト..... 学生のもっている知識の診断
- ・ 小テスト..... 学習した基本的な事項の理解度の測定
- ・ 中間試験、小レポートなど..... 学期の中間段階で到達度の測定
- ・ 期末試験。期末レポートなど... 学期の終了時に最終的な到達度の測定
  
- ・ 成績評価... 小テスト、中間試験、小レポート、期末試験・レポートなどの結果を総合して成績評価し、合否判定を行う。それぞれが成績にどのように反映されるか、シラバスに明記する。

### 3. 成績評価の方法

#### 2)どのような評価をするのか？

- ・学習目的に応じた評価方法を選択しましょう。

評価方法の種類		学習目的
客観試験	○×式、多肢選択式問題	知識、理解、問題解決能力
論述試験	いわゆる書き取り問題	知識、理解、問題解決能力
口頭試験	面接による試験	知識、理解、問題解決能力、コミュニケーション能力
実地試験	実際の行動を観察記録による評価	問題解決能力、技能、態度、習慣、創造力、応用力、コミュニケーション能力
論文・レポート	テーマにそった論述	知識、解析力、叙述力、論理性、情報収集能力、創造力

### 3. 成績評価の方法

一般的に使われる客観試験(テスト)のメリット・デメリットを説明します。

#### 【メリット】

- 学習した範囲全体から問題が出せる
- 採点が容易で、採点の信頼度が高い
- 採点から合否判定までスピーディにできる

#### 【デメリット】

- デタラメ回答による偶然得点がある
- 理解の深さの程度が見られない
- 推理、表現、論述などの能力が見られない

### 4. よい試験を行うための留意点

#### 1) よい試験のための条件

- 妥当性・・・学習の到達度を測るのにその問題は適切か？
- 信頼性・・・同じ集団に対して同じ試験をくり返し行っても同じ結果が得られるか？
- 客観性・・・誰が測っても一定の結果が計測できるか？
- 効率性・・・評価が容易で、経済的にも時間的にも実用的であるか？

## 4. よい試験を行うための留意点

### 2) 試験問題を作るときの留意点

- 試験問題はコースの目標に応じて作られる。
  - 事実的な知識を重視するのか？
  - 事実よりも原理を重視するのか？
  - 概念の理解、原理の応用、解釈、事象の分析など複数の目標をもつなら目標に応じた内容と形式を用意する。
- 論文体の問題は採点が主観的になりやすい。
  - 問題が大きすぎると答える方向や内容がまちまちになる。
  - 例)「新憲法について述べよ」→「新憲法について①その制定前後の事情、②旧憲法との比較、③残された問題点について述べよ」

## 4. よい試験を行うための留意点

### 3) 試験を実施する際の条件

- 問題を出す範囲を事前に学生に伝える。
- 授業の目標にあげた事柄は必ず問題に含める。
- 学習した範囲全体をカバーするように問題を作る。
- 授業の目標としたレベルを中心にして難易度の異なるレベル授業の目標としたレベルを中心にして難易度の異なるレベルの問題を出すの問題を出す。

## 4. よい試験を行うための留意点

### 4) 学生の自主学習を促すための工夫

例えば、次のような行為は学生の自主学習を促します。

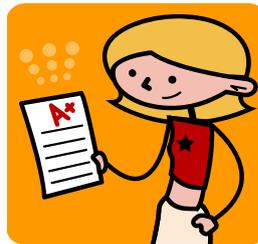
- 過去の試験問題の配布
- 学生が自分で手書き作成したA4版メモ1枚の持ち込み許可
- 予想問題の作成を宿題に課す

## テストを実施する前のチェックリスト

- 事前に学生に予告したとおりの形式になっているか？
- 学生が授業全体で獲得した知識やスキルによって解答することが可能な問題になっているか？
- 問題の分量は適当か？
- 問題文の指示はあいまいでないか？ 誤解をまねかないか？
- 解答欄のスペース欄は適当か？
- 問題の難易度は適切に分布しているか？
- やさしい問題から難しい問題へと配置されているか？
- 問題自体が取り組む気持ちにさせる興味深いものになっているか？

## 評価に関わる情報(シラバスに記入)

- テストやレポートの内容、時期、提出期限を明記することで学生の計画的な学習を促す。
- 基準、配分割合(例:テスト60%「、レポート20%、毎回のコメントシート20%)を明記する。
- 目的・目標と対応させる。
- 成績評価基準は測定可能なものにする。
- 学習と全く関係のないものを評価対象としない。



試験が終わった後に学生の学習意欲が増すような  
そんな試験ができるといいですね。

## 5. 様々な成績評価①

### 1) 総合的な評価

- 「使える力」「発揮される力」を育成する。
- プロセスや質の評価を重視する。
- 評価を指導に生かす。

### ルーブリック評価

### ルーブリック評価

- いくつかの評価項目について、各グレードの典型となる言葉の評価基準として記述し、学習者の行動を評価する。
- 通常、表の形で示され、グレードの判定結果を評価項目ごとに記入する。
- 学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を立てる。

## ルーブリック評価の仕組み

安全で適切に化学実験を行う

課題の説明

項目	レベルA	レベルB	レベルC
準備	すべての適切な材料が整っており、レポートに記述されている。	すべての材料が出されているが、すべてが記述されているわけではない。もしくは不足していて途中で補充しなくてはならない。	必要な材料がなく、レポートへの記述もない。大きな手抜きがある。
手順	手順は根拠とともによく考えられており、適切である。	手順はもっと効率よく工夫することが可能であるが、適切ではない。	不適切な手順である。
安全性			
効率			
・			
・			

説明・評価基準

UNIVERSITY

## ルーブリック評価の例

- 資料1: 科学レポートのルーブリック
  - ルーブリックにチェックを入れレポートと一緒に返すことで、効率的に指導ができます。
- 資料2: 共同研究のルーブリック
  - 共同学習への参加態度や行動指針を示し、評価の難しい態度領域への評価ができます。

## ルーブリック評価の利点

1. 学生自身が、どの程度まで努力すればどのような評価がもらえるのか、行動指針が明確になっている。
2. 学生が自らの学習活動を評価できる。
3. 評価の幅が広がり、現実の学習場面に即した評価を行いながらもある程度の客観性を確保する。
4. 異なる人が評価しても同じ結果が得られる。
5. 教員による評価と学生による評価が比較検討できる。

## ルーブリック作成のポイント

1. その単元で達成する目標、内容をすべて網羅する。
2. ルーブリックで扱う範囲を決め、表の作成を行う。
  - その単元の評価規準を踏まえ評価項目を作成する。
  - 評価項目はだれでも重要と認めているものとする。
  - 評価項目は、「過程における努力」や「意欲」を評価できるように工夫する。
  - 達成度のレベルを3～5段階に分ける。
3. 評価語が標準的で客観的かどうかを確認する。
  - 説明が長すぎず、現実的である。
  - 学習内容に対して適切である。
  - 具体的なレベルの違いを示す(量的な基準を示す)。

## ルーブリックの応用

学習スキルに格差が大きく得点がつけにくい  
(多様な学生が混在するこれからの大学)



厳正な成績評価  
教育単位の実質化

## 情報処理演習の簡易ルーブリック例

得点	機器操作	意欲	興味・関心	理解	統計知識	課題提出
5	間違いなくスムーズにでき、新しい操作を自ら習得できる	わからないところを質問したり、自己学習してきたことをクラスに還元したりできる	非常に高い	提示した課題に対してほとんどひとりで時間内に実施でき、周囲のメンバーにも教えることができる	統計的知識が十分に備わっている	全問正解で提出遅れなし
4	間違いなくスムーズにできる	わからないところを質問したり、自ら調べたりできる	やや高い	提示した課題に対してほとんどひとりで時間内に実施できる	統計的知識をほぼ身につけている	
3	わからないことを聞きながら正確に実施できるがスピードはゆっくり	教えられることに忠実に学ぶ	普通	提示した課題に対して誰かに助けをもらえば正確に実施できる	統計的知識について、言えば思い出せる	全問正解で提出遅れ
2	周囲から助けをもらいながら実施する	依存的な学習	やや低い	提示した課題を理解するためにサポートが必要	統計的知識について理解していない	提出しているが不正解
1	正確に実施できない	学習意欲が感じられない	低い	提示した課題に対して間違った解決を示す		

## 6. 様々な成績評価②

### 2) 複数の教員で評価する

- 複数の教員でグループワークを担当する場合、評価者の主観が評価に反映してしまう場合がある。
- グループワークへの参加態度やグループ・コミュニケーションを評価する。
- 学生の相互評価を学習意欲の向上や評価に生かす。

### セミナー評価

EHIME 愛媛大学  
UNIVERSITY

### セミナー評価例 新入生セミナーの成績評価

#### 1. 学習目標

- グループディスカッションを行うことで、社会で起こりうる問題について考え、自分の意見を述べることができる。
- 新聞記事を題材にした学習課題を使ったグループワークを通して、読解力、情報収集、プレゼンテーション技法をトレーニングする。

#### 2. 学習方法

- 7-8人編成のグループでテーマを決めて学習する。
- 各グループ活動に担当教員が参加する。
- 6回(12コマ)のグループワークを行い、最終回に発表・討論を行う。

EHIME 愛媛大学  
UNIVERSITY

## 評価内容と配点(シラバスに明示)

1. グループワークへの参加(40点)
  - 教員評価(30点)
  - 学生相互評価(5点)
  - グループワーク振り返りシート(毎回の記録)(5点)
2. 最終発表会の内容(20点)
  - 学生相互評価(10点)
  - 教員評価(10点)
3. ポートフォリオ・個人レポート(40点)
  - 自己学習資料:ポートフォリオ(10点)
  - 個人レポート(30点)
4. 出席評価
  - 遅刻2点、30分以上の遅刻は欠席とする

## 評価基準

1. グループワークへの参加(各5点×6回)
  - 準備(課題)をして取り組んでいる(取り組み姿勢)
  - 話し合いに積極的に参加している(積極性)
  - グループに貢献するように作業している(作業能力)
  - うなずき、あいづち、アイコンタクトができている(コミュニケーション能力)
2. 最終発表会評価(各5点×各教員・各学生/10点満点に換算)
  - 発表の内容をよく準備しているか(周到な準備)
  - 自分たちの独自のアイデアや意見を盛り込んでいるか(内容の独自性)
  - 論旨が簡潔に表現され、わかりやすいか(簡潔明瞭な論旨)
  - 論旨が十分に説得力を持っているか(妥当性・説得力)
  - 発表における態度や時間管理はよかったか(態度・時間管理)

## 1回のグループ学習評価表

月日 学籍番号

### 評価項目

- グループワーク態度評価(観察)
  1. まじめな取組姿勢(5点満点)
  2. 積極的な参加(5点満点)
  3. 作業能力、作業貢献(5点満点)
  4. 発言及び傾聴の態度(5点満点)

コメント欄( )

- 課題シート(個人学習内容) 5点満点

※3点を「ふつう」とし、内容、ボリューム、論理、書き方などについて加点・減点してください。

- グループ課題(グループ学習内容) 5点満点(グループ全員同じ得点)

※3点を「ふつう」とし、内容、ボリューム、論理、書き方などについて加点・減点してください。

合計(30点満点)

※最終的に全日程の合計で30点満点になるようにします。

## レポート採点表

レポートの内容に沿って加点・減点する。  
例えば構成については最大3点まで加点できる

学籍番号	構成	文章の明快さ	知的な議論	今後への発展	文法	雑さ	タイプミス	表面的	基本	得点(30満点)
	+3	+2	+3	+2	-2	-2	-2	-2	+20	

## 評価基準

1. グループワークへの参加(各5点×6回)
  - 準備(課題)をして取り組んでいる(取り組み姿勢)
  - 話し合いに積極的に参加している(積極性)
  - グループに貢献するように作業している(作業能力)
  - うなずき、あいづち、アイコンタクトができている(コミュニケーション能力)
2. 最終発表会評価(各5点×各教員・各学生／10点満点に換算)
  - 発表の内容をよく準備しているか(周到な準備)
  - 自分たちの独自のアイデアや意見を盛り込んでいるか(内容の独自性)
  - 論旨が簡潔に表現され、わかりやすいか(簡潔明瞭な論旨)
  - 論旨が十分に説得力を持っているか(妥当性・説得力)
  - 発表における態度や時間管理はよかったか(態度・時間管理)



共同学習への自主的な参加を促すために  
行動指針を含めた評価基準の明示が有効です。

## 7. 試験の管理

### 1) 成績の開示

- 成績点の公開
- 答案の返却
- 成績判定資料の保管
- 成績評価への申し立て

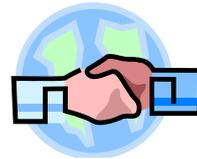
## 7. 試験の管理

### 2) 不正の防止

学生の不正行為は発見することに重きを置くよりも、不正を行わないようにすることの方が大切です

#### 【試験監督の際の留意点】

- 試験のアナウンスとともに、カンニングが本人にもたらず結果について話し、カンニングをしないように伝える。
- 試験のあいだ受験生の机の間を歩くなどして監督者が見ていることを知らせる。
- カンニングと疑われるような行為をしている学生が現れたら、その学生の横にしばらく立って見る。
- カンニングは現行犯なので、後日の呼び出しなどは効力がない。
- 解答用紙への記名の確認は、カンニング防止に効果がある。



評価とは、学生を励まし、支え、援助するための  
もので、未来志向の暖かいものです。

### 参考文献

- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹(2000)『成長するティップス先生』(玉川大学出版会)
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(2007)『FDハンドブック第1巻  
もっと！！授業を良くするために』
- 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(2005)『FDハンドブック第2巻  
もっと！！授業を良くするために』
- 徳島大学大学教育委員会(2002)『FD推進ハンドブック』
- MARIYN H. OERMANN, KATHILEEN B. GABERSON著、舟島なをみ監訳  
(2001)『看護学教育における講義・演習・実習の評価』(医学書院)
- Deborah L. Ulrich, Kellie J. Glendon著、高島尚美訳(2002)『看護教育にお  
けるグループ学習のすすめ方』(医学書院)